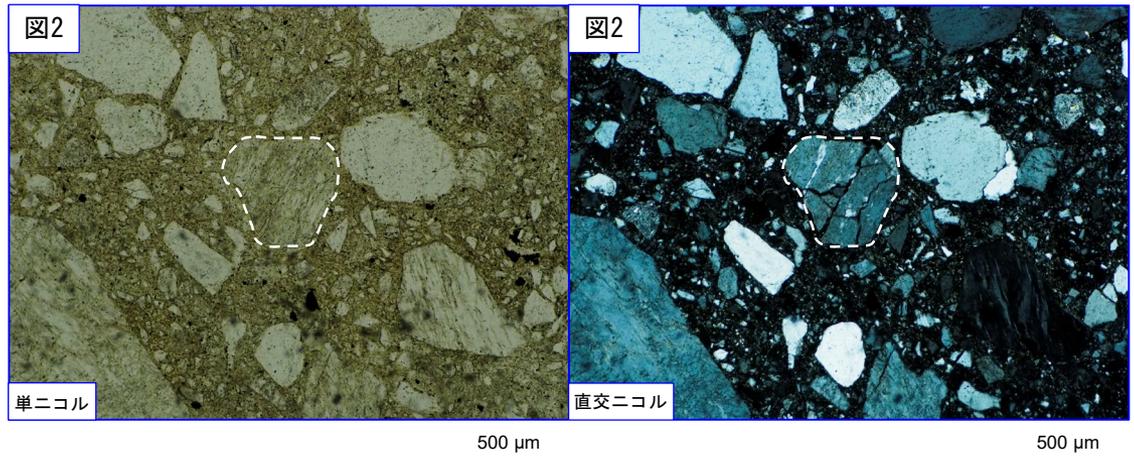
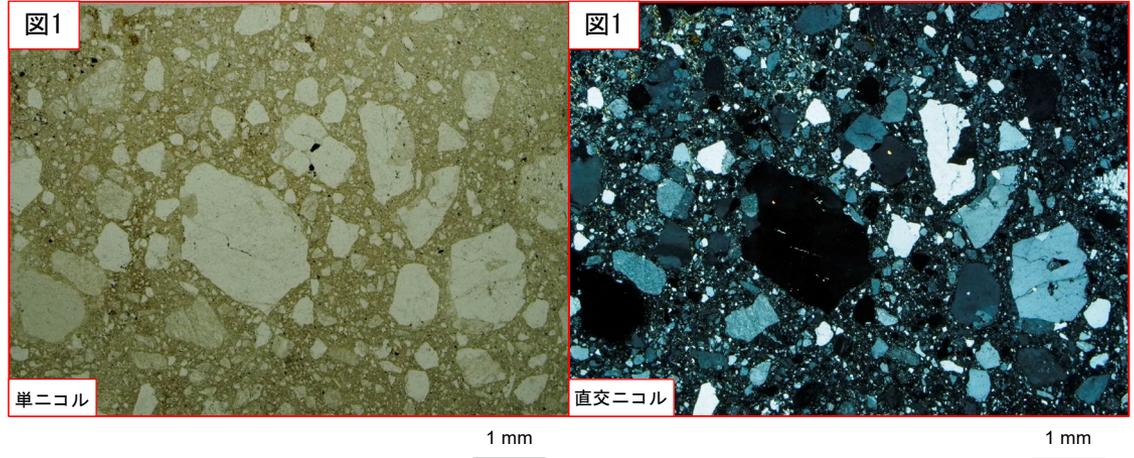
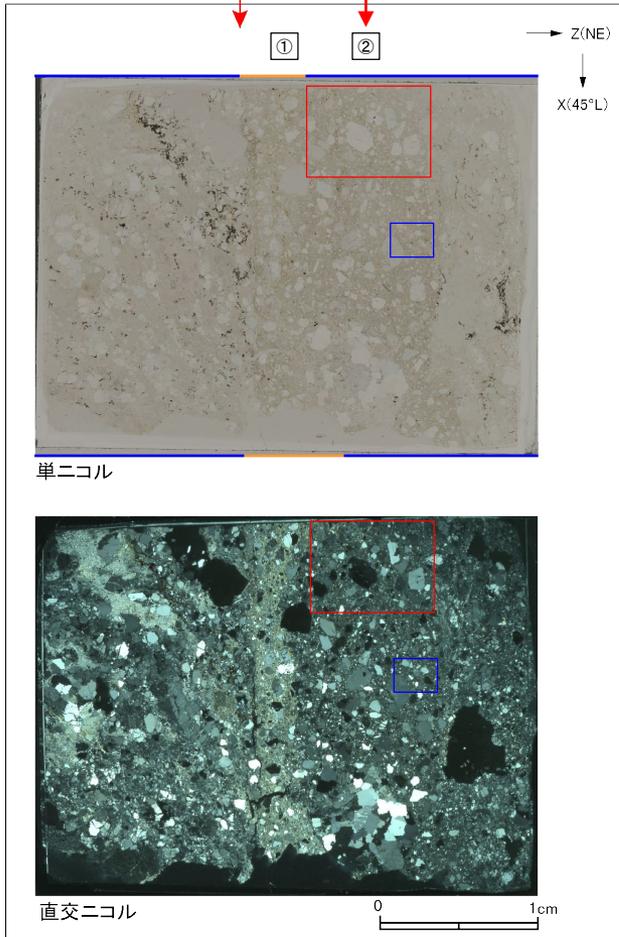
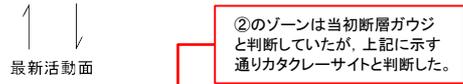


H27-B-1 深度42.41~42.49m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ②のゾーンには以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図1, 2)



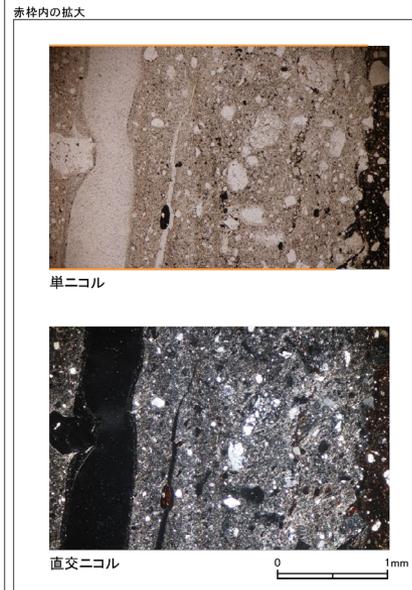
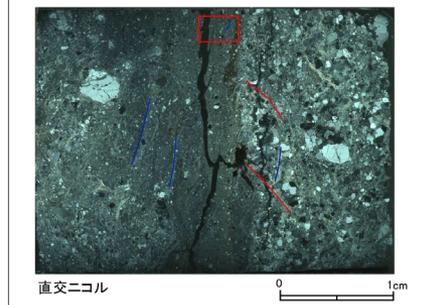
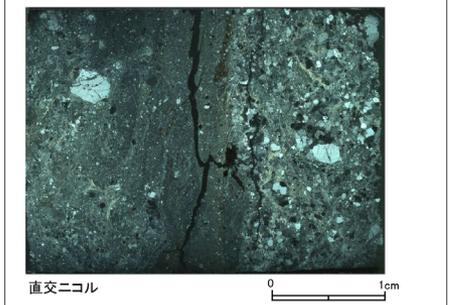
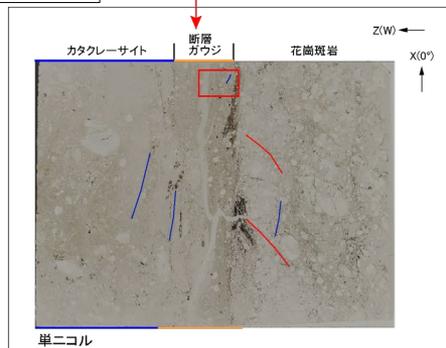
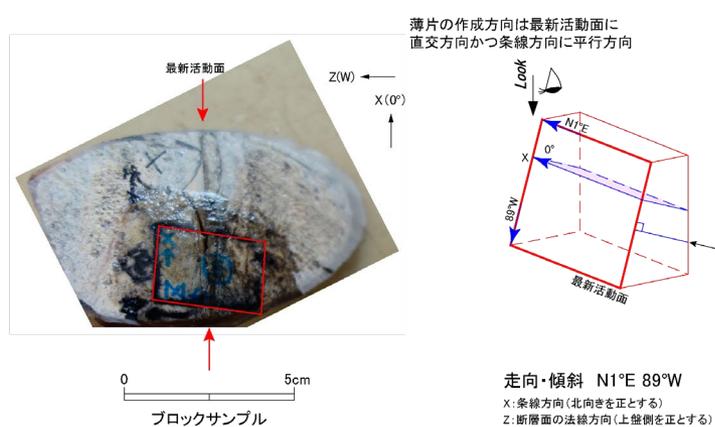
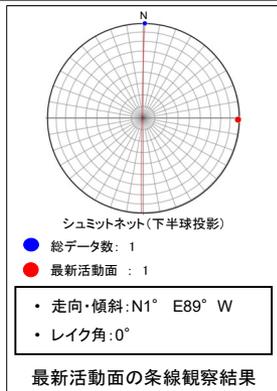
破線はジグソー状の角礫群示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

H27-B-1 深度44.24~44.53m 非モデル化破砕部

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度44.31m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

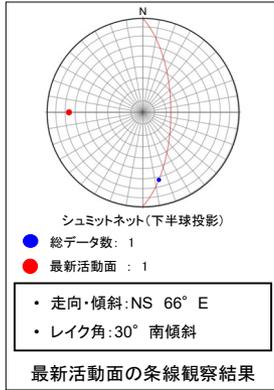
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

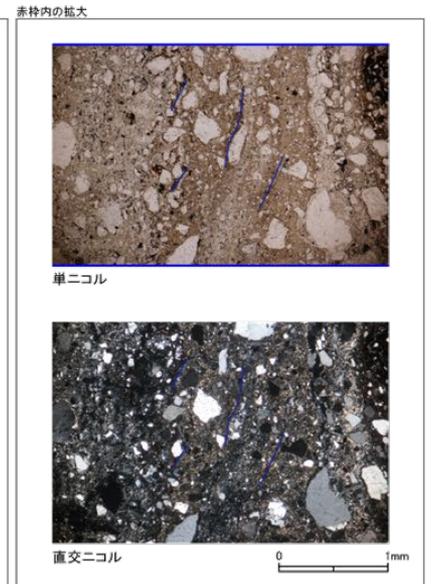
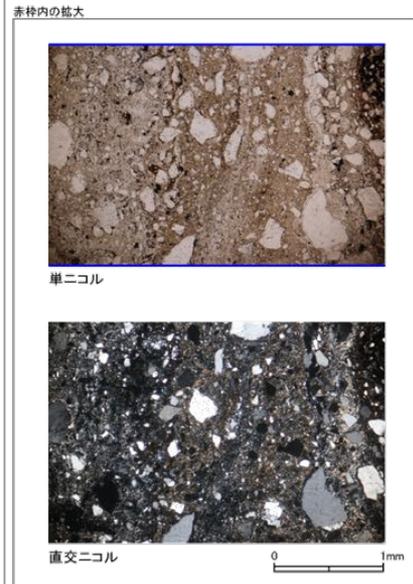
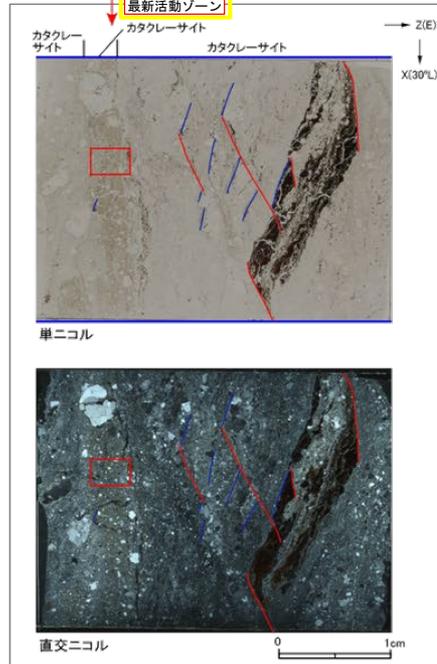
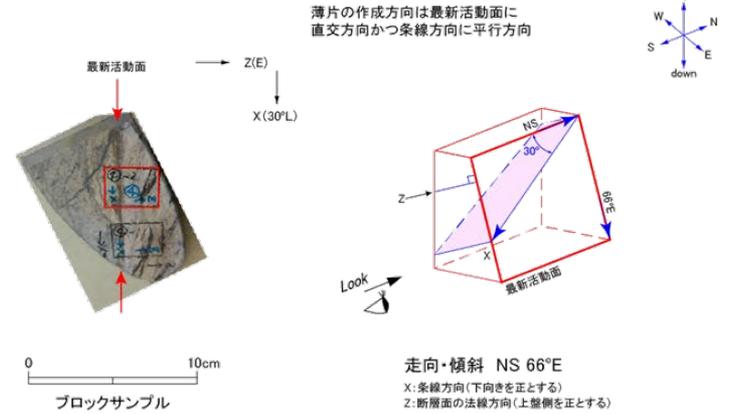
H27-B-1 深度44.53~44.83m 非モデル化破砕部

- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度44.66m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



最新活動面

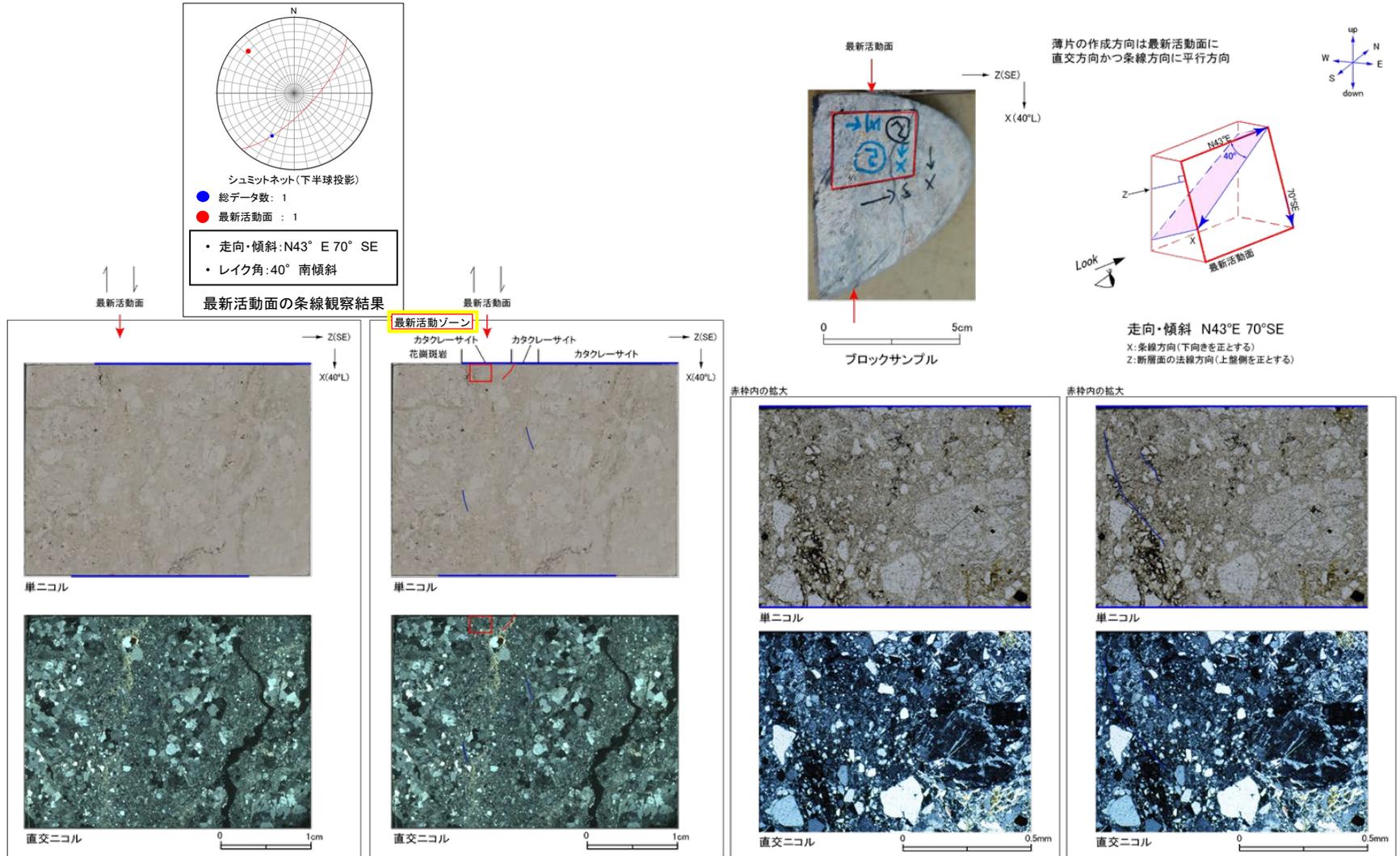
最新活動面の条線観察結果



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度45.36~45.39m 非モデル化破砕部

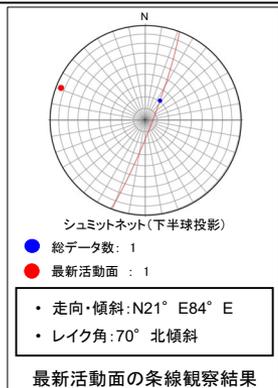
- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度45.39m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少ないことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



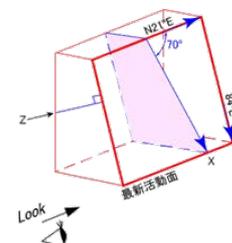
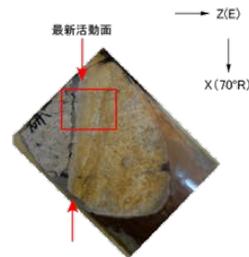
H27-B-1 深度47.40~47.51m 非モデル化破砕部

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.40m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

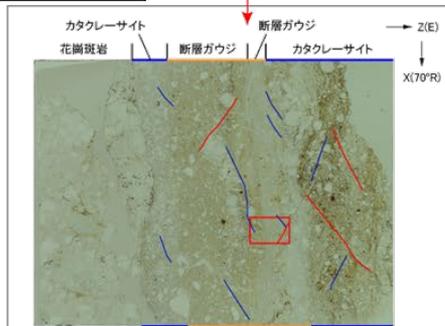
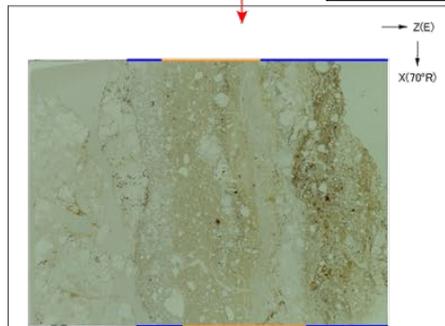


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

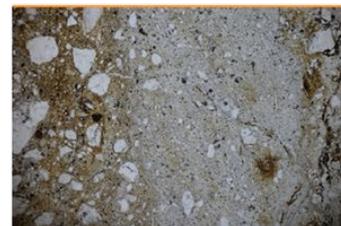


走向・傾斜 N21°E 84°E
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

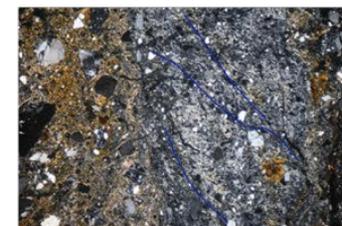
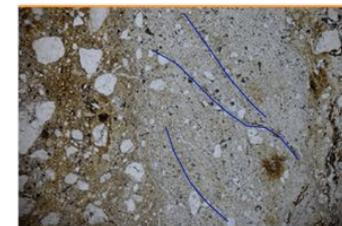
0 10cm
ブロックサンプル



赤枠内の拡大

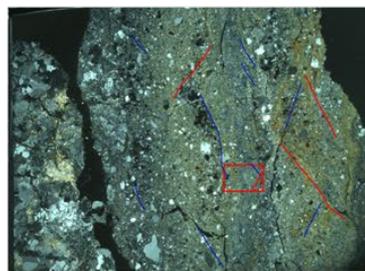


赤枠内の拡大



0 1mm

0 1mm



0 1cm

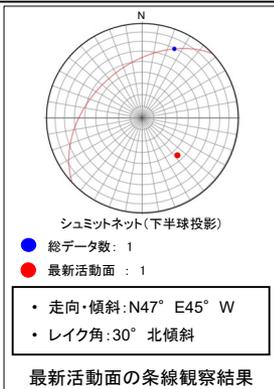
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-1 深度49.17~49.22m 非モデル化破砕部

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.17m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

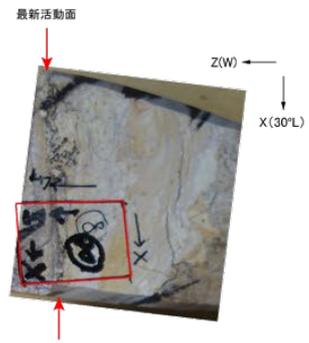
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



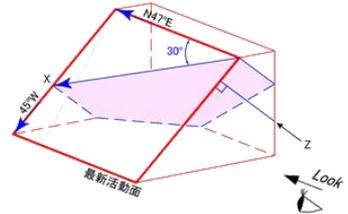
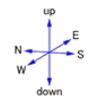
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

最新活動面

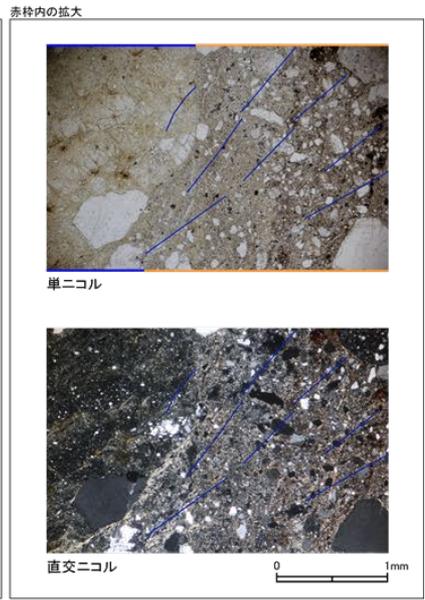
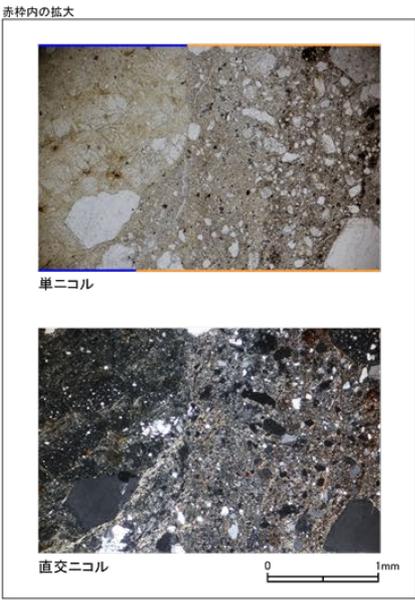
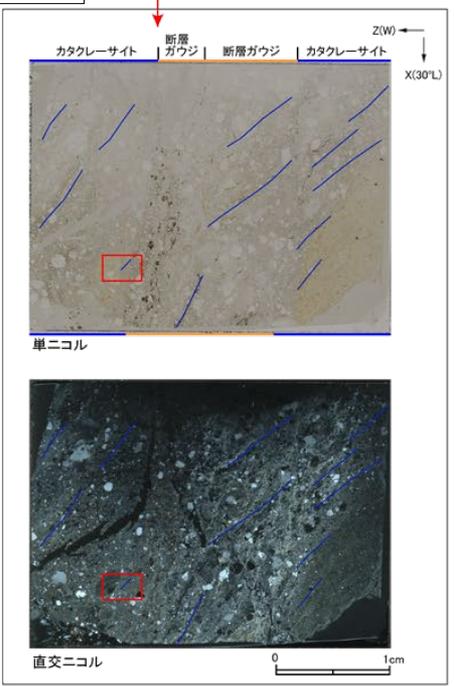
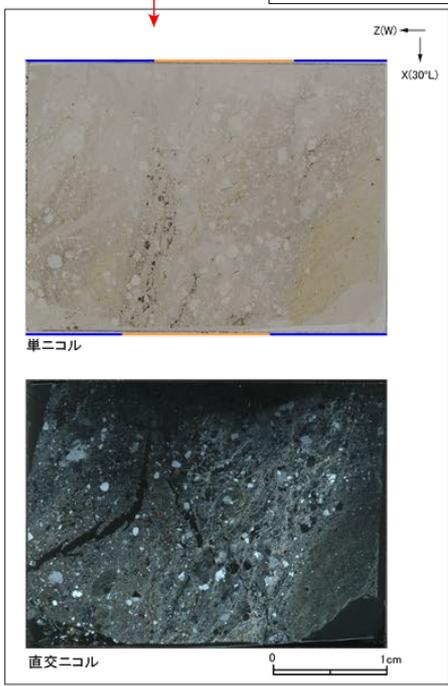


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N47°E 45°W

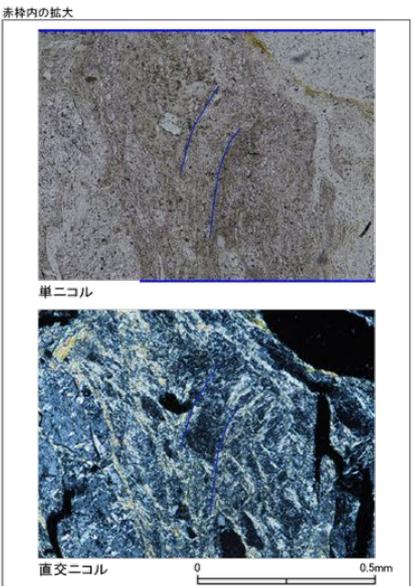
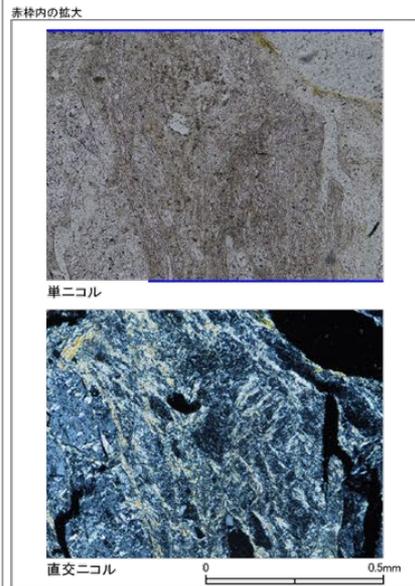
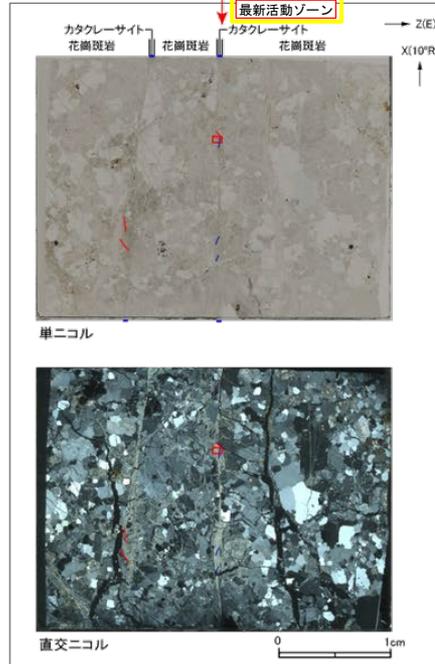
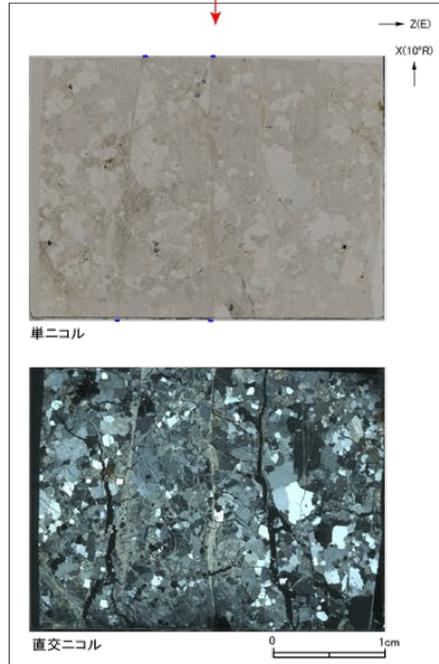
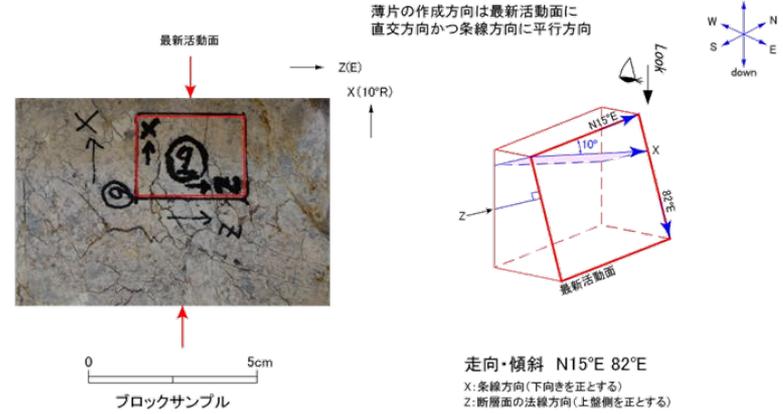
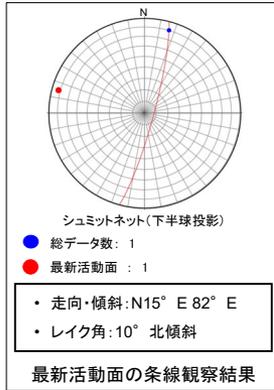
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破砕部

- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度52.81m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少ないことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

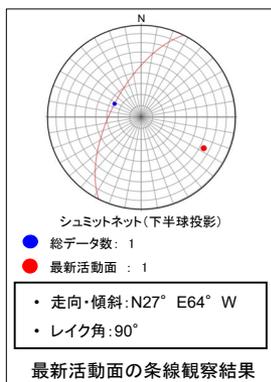


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

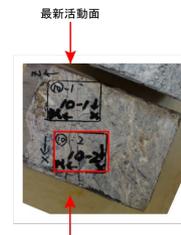
H27-B-1 深度53.17~53.22m 非モデル化破砕部

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.17m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

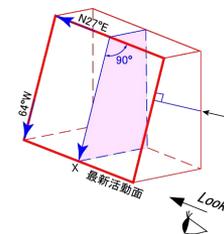
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

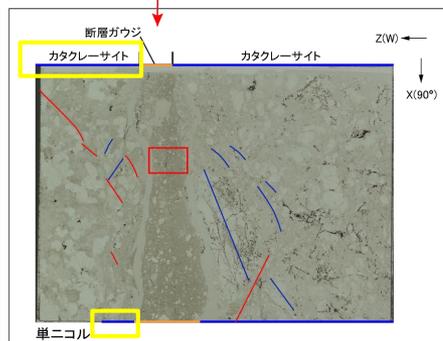


Z(W) ←
X(90°) ↓



0 10cm
ブロックサンプル

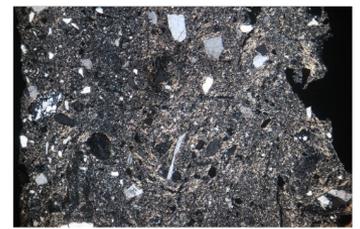
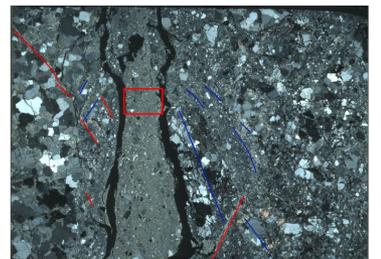
走向・傾斜 N27°E 64°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

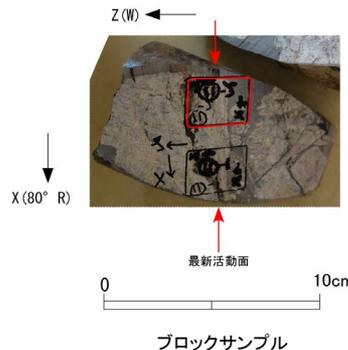
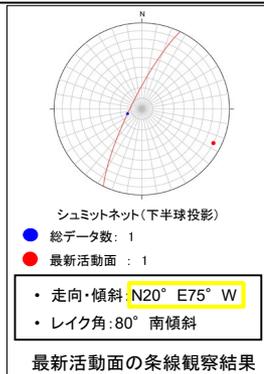


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

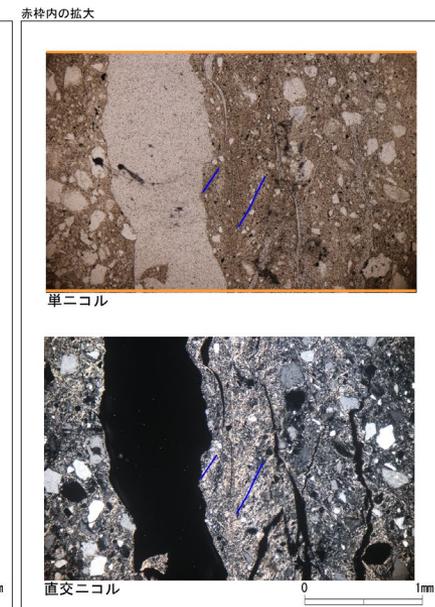
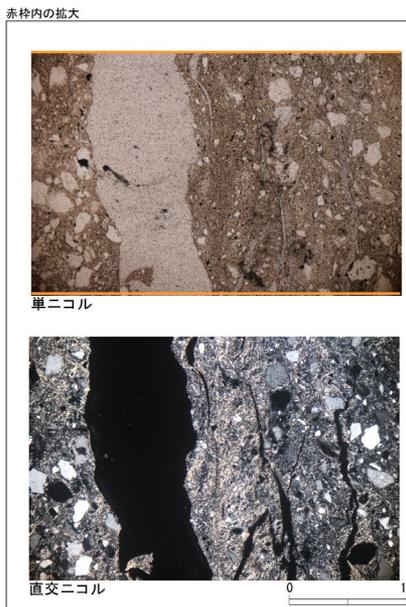
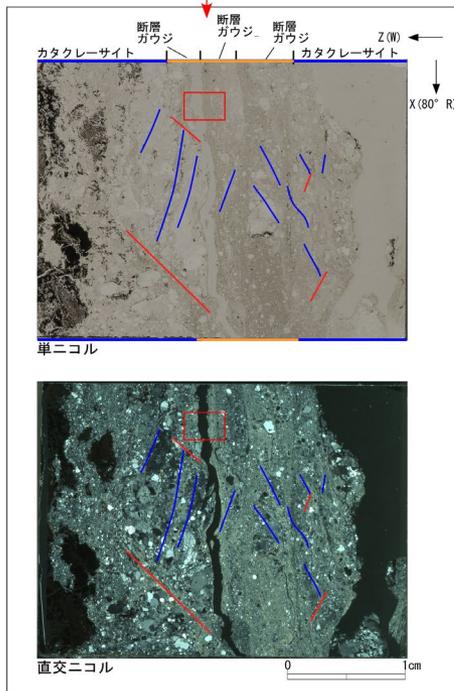
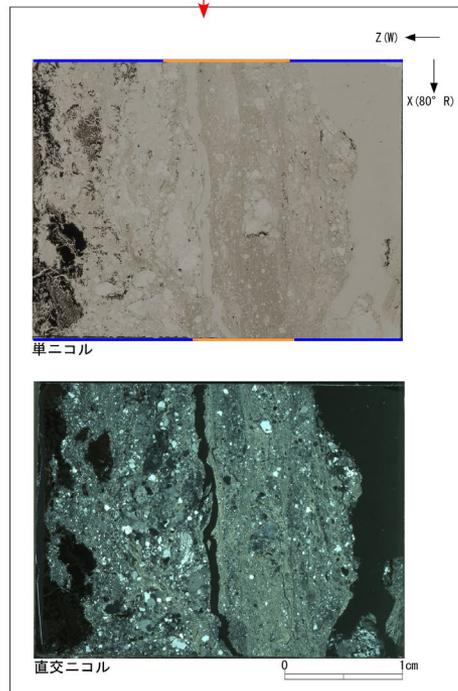
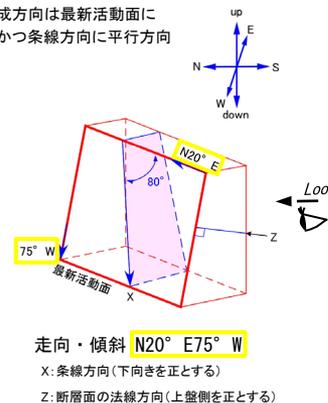
H27-B-1 深度59.82~59.85m D-1破砕帯

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.85m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

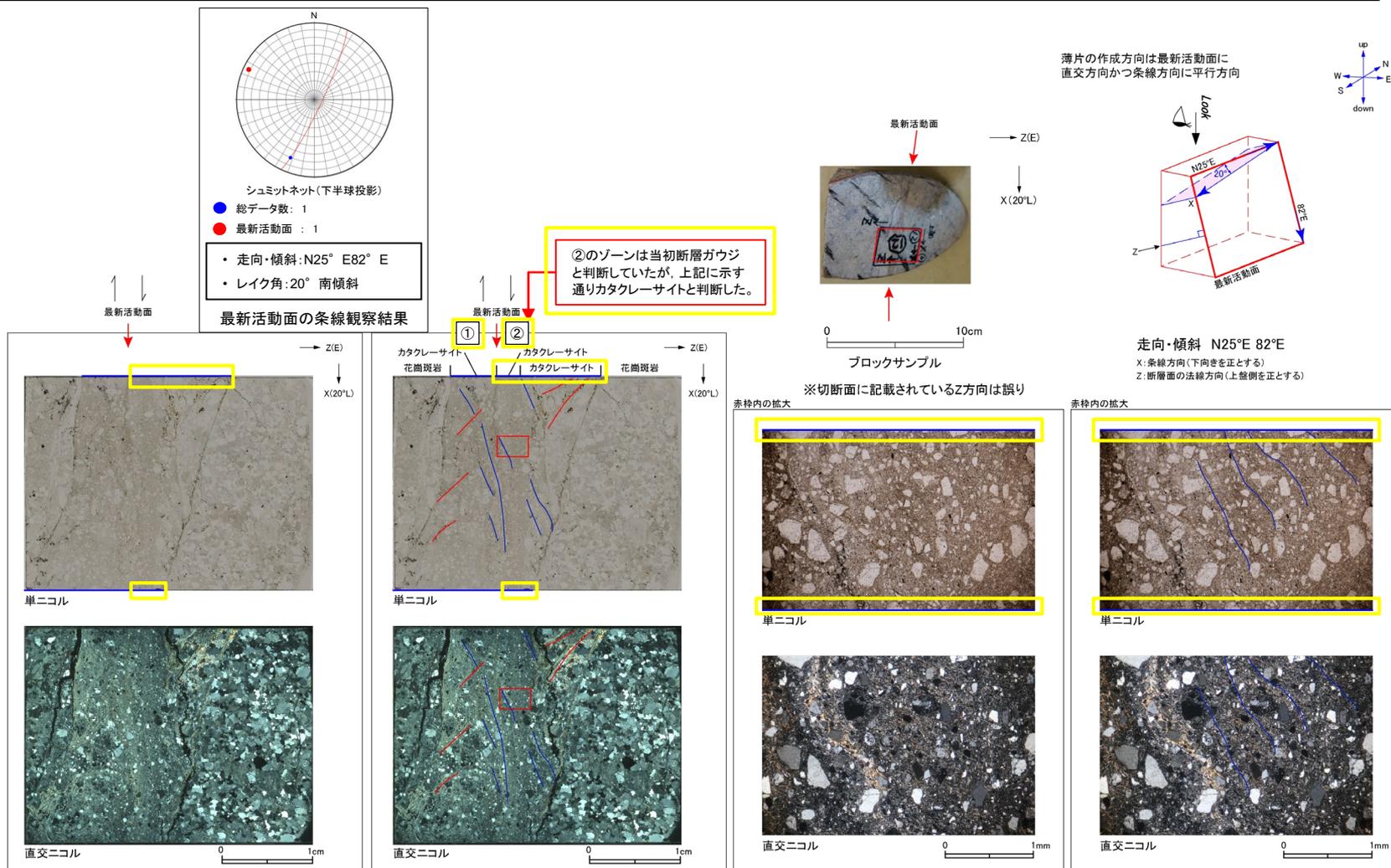


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

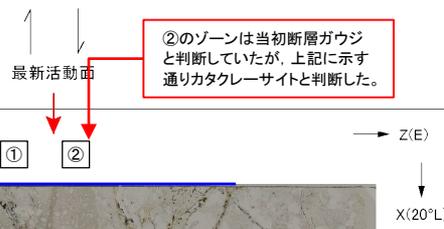
- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度69.70m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 - ・断層岩区については、ゾーン(②)はカタクレーサイトと評価したゾーン(①)より細粒であり、破碎流動も比較的少ない。また、全体的に粘土鉱物が認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)なお、ゾーン(①)にはジグソー状の角礫群などのカタクレーサイトと示す特徴が認められる。
 - ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、②のゾーンには以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 岩片は角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



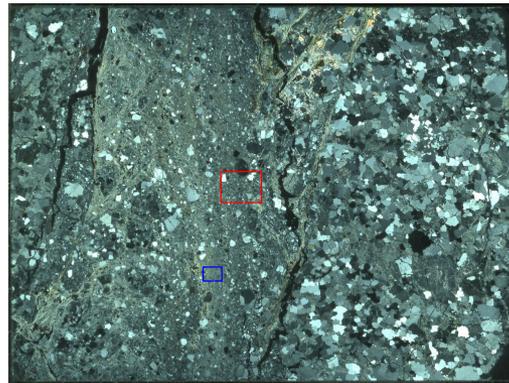
H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破砕部(2/3)

・②のゾーンには以下の特徴が認められる。

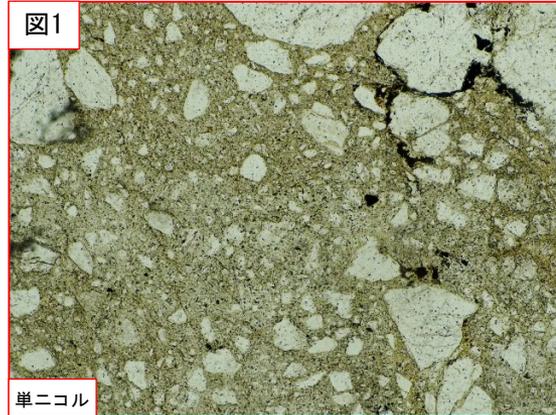
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 岩片は角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図1, 2)



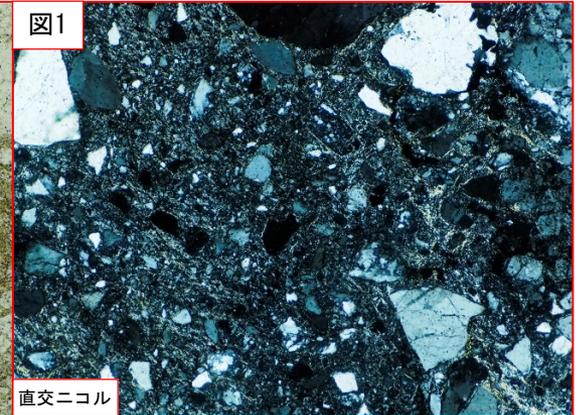
単ニコル



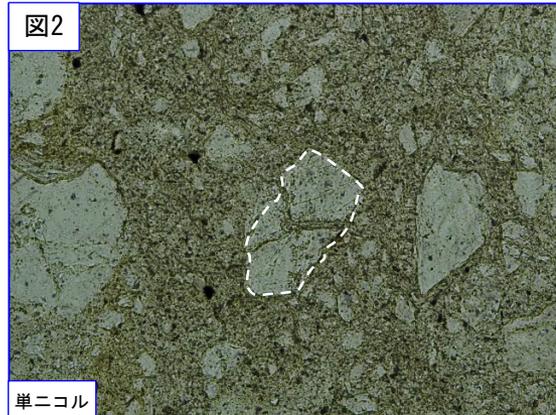
直交ニコル



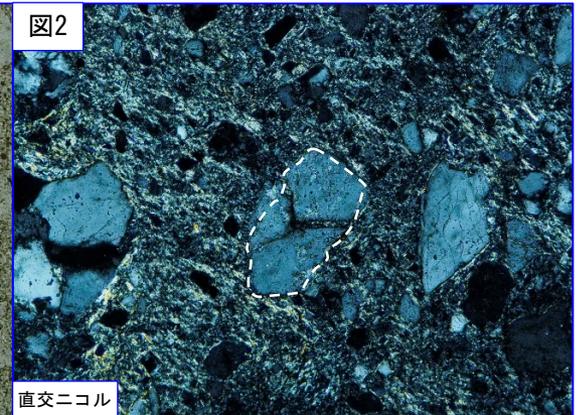
単ニコル



直交ニコル



単ニコル



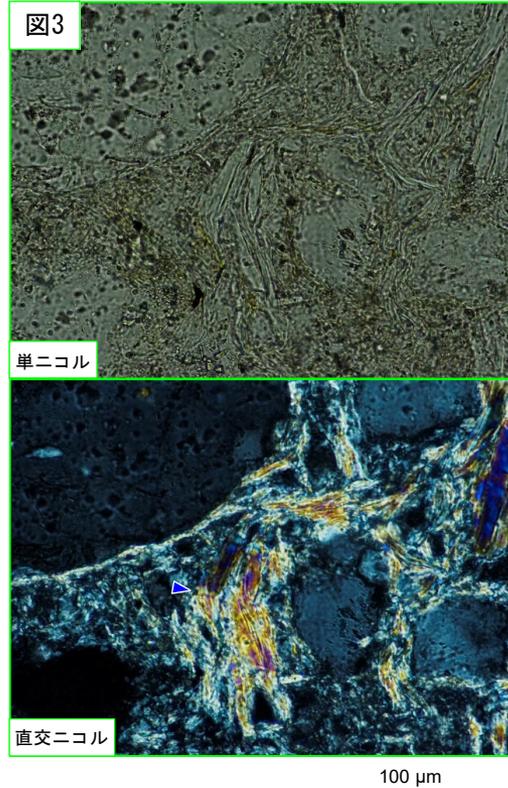
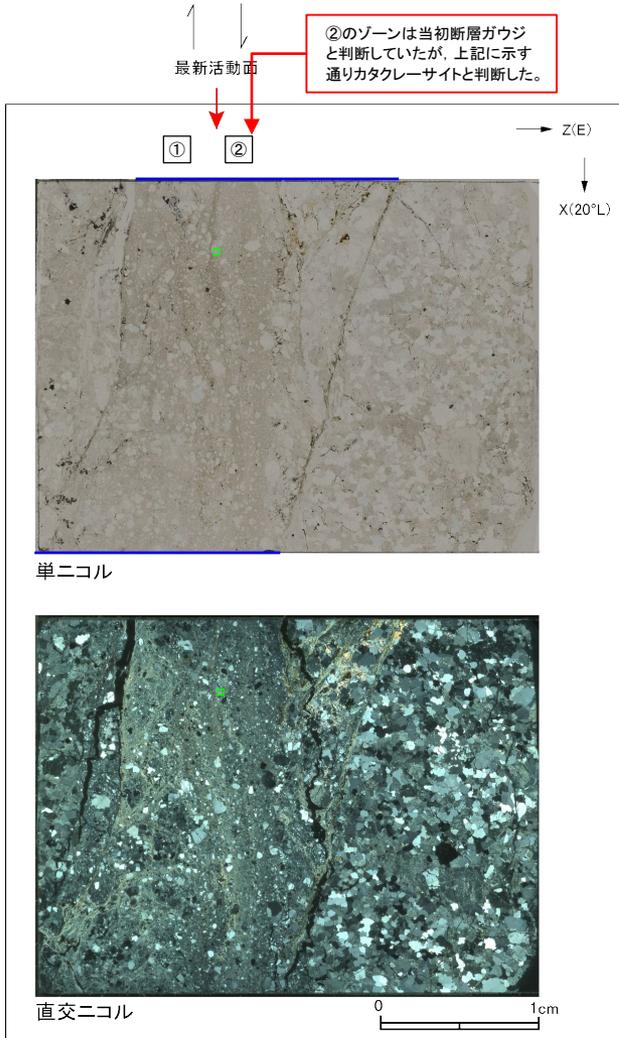
直交ニコル

破線はジグソー状の角礫群示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

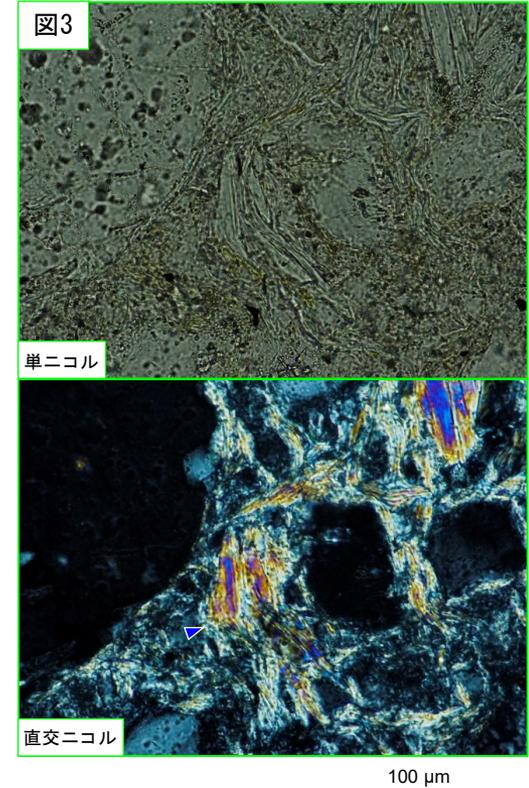
H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破砕部(3/3)

- ・②のゾーンには以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



→

ステージを
反時計回りに
約27度回転

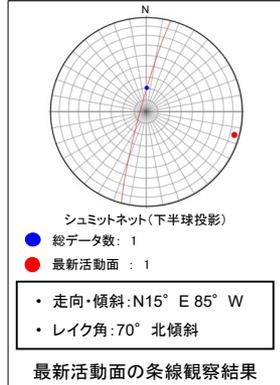


青矢印は屈曲箇所を示す。

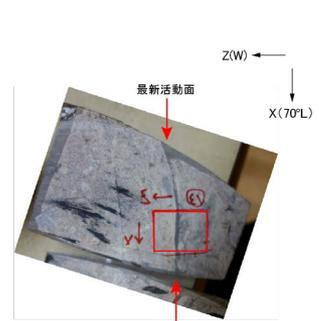
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度74.40m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、破砕部中央のゾーンは周辺のカタクレーサイトのゾーンより細粒であり、局所的ではあるが幅6mm程度の範囲で粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

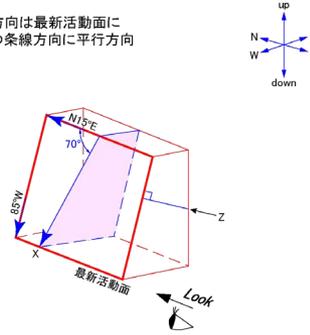
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 岩片は角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。



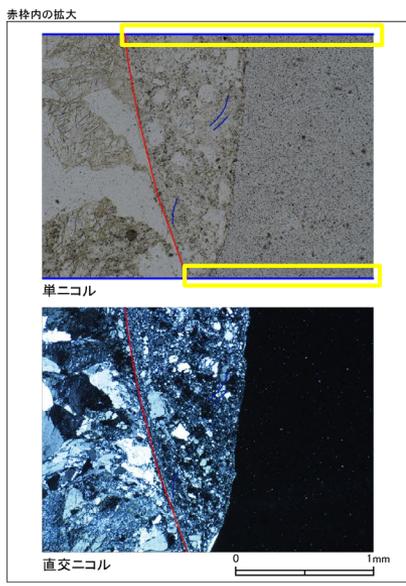
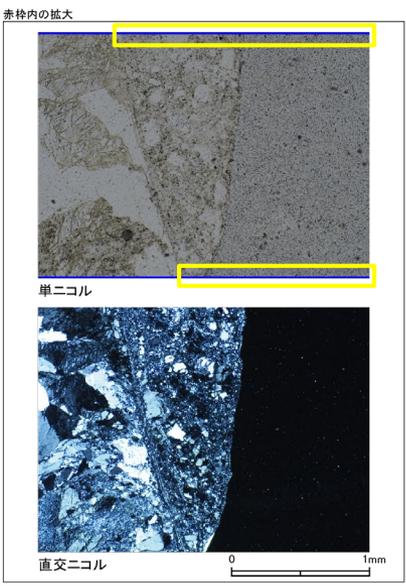
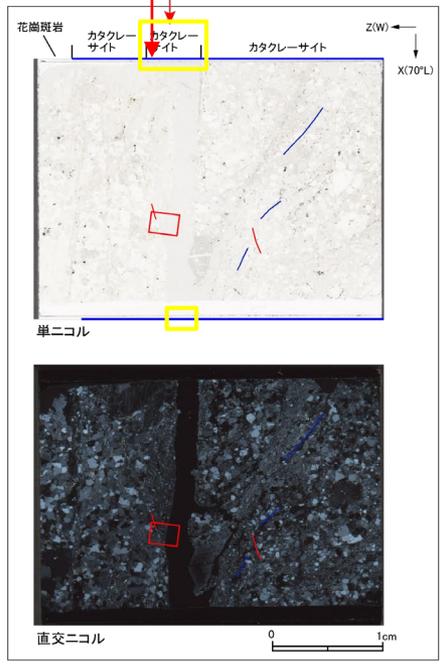
このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N15°E 85°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

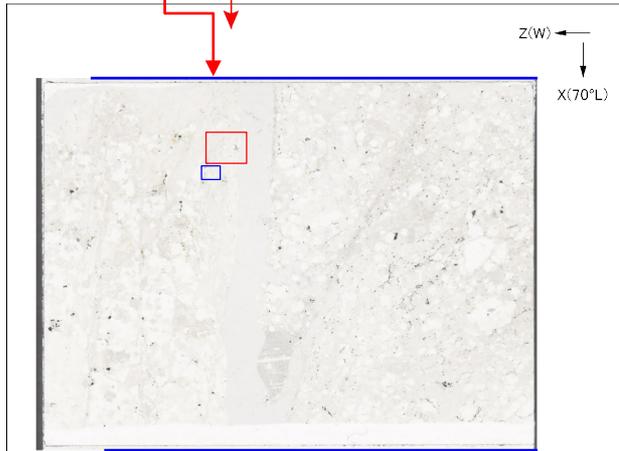
H27-B-1 深度74.36~74.50m 非モデル化破砕部(2/2)

- ・破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 岩片は角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)

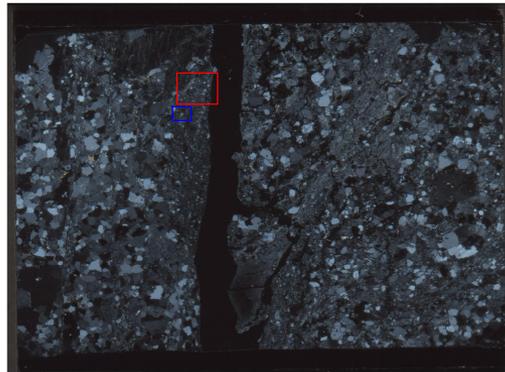
②のゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



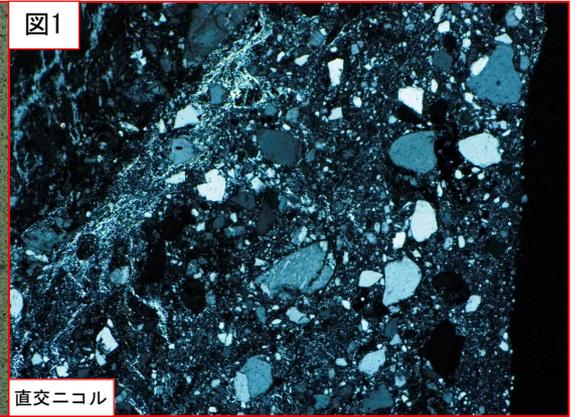
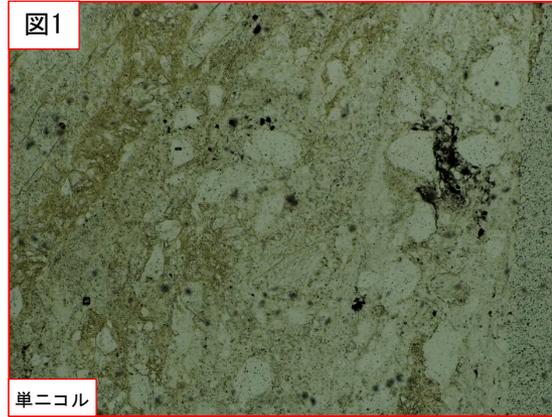
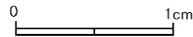
最新活動面



単ニコル

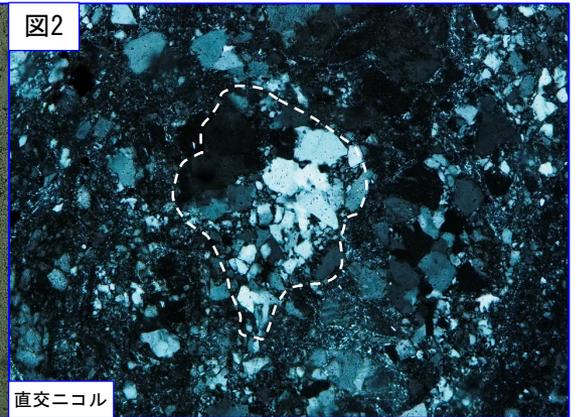
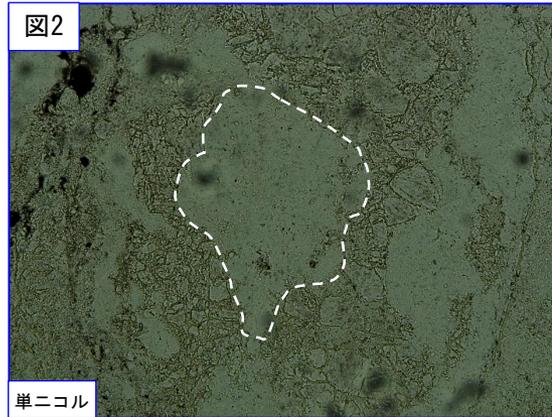


直交ニコル



500 μm

500 μm



100 μm

100 μm

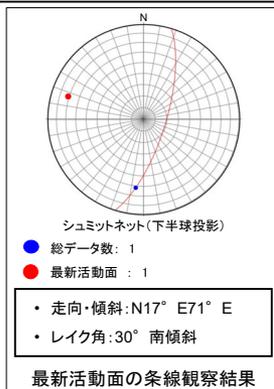
破線はジグソー状の角礫群示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

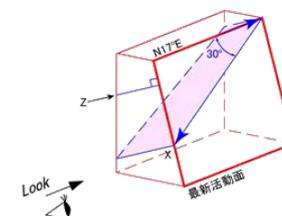
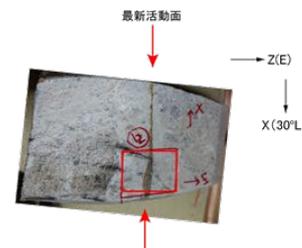
H27-B-1 深度78.72~78.87m 非モデル化破砕部

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度78.87m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

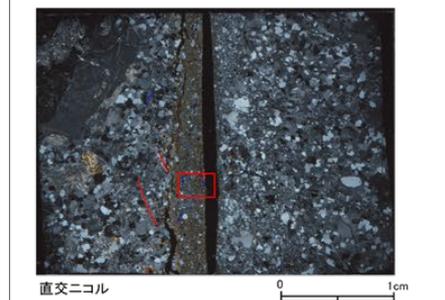
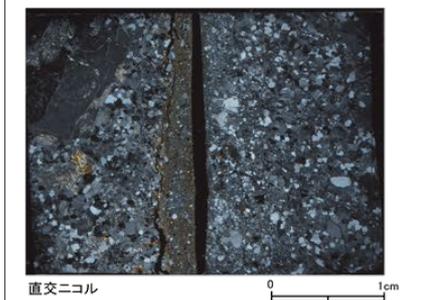
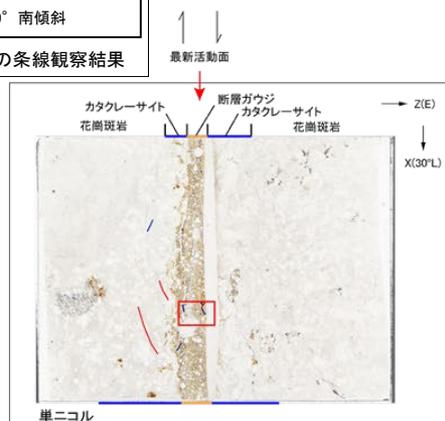
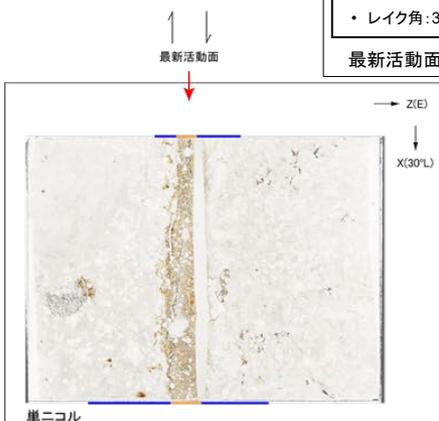


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ糸線方向に平行方向

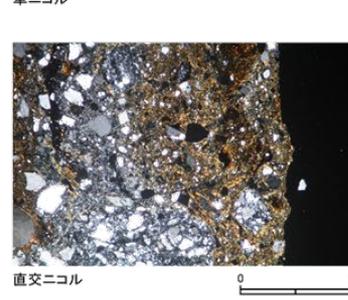
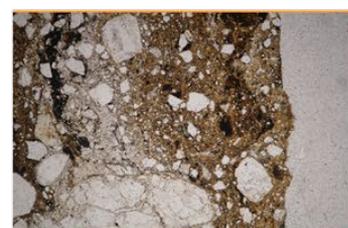


走向・傾斜 N17°E 71°E

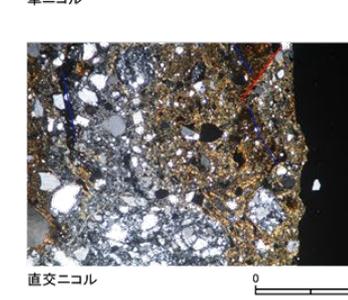
X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



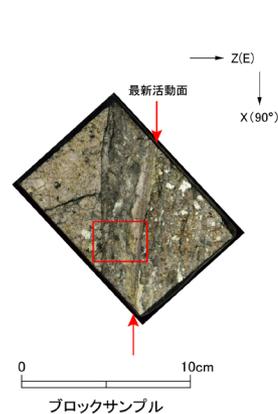
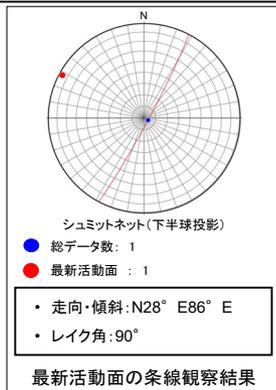
※切断面に記載のX方向は誤り

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

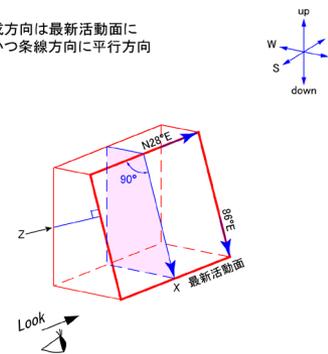
H27-B-1 深度85.38~85.41m f-b-1-16破砕帯

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度85.41m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

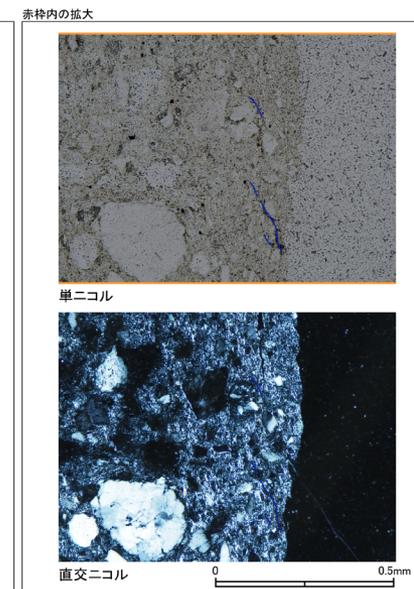
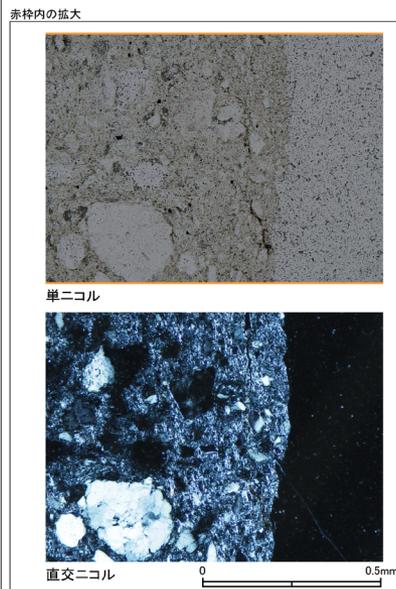
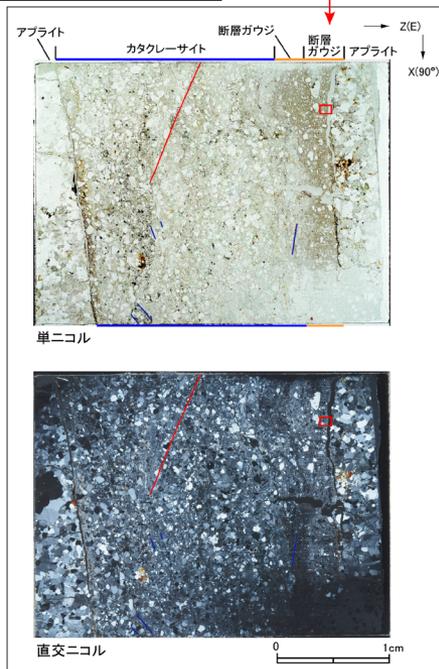
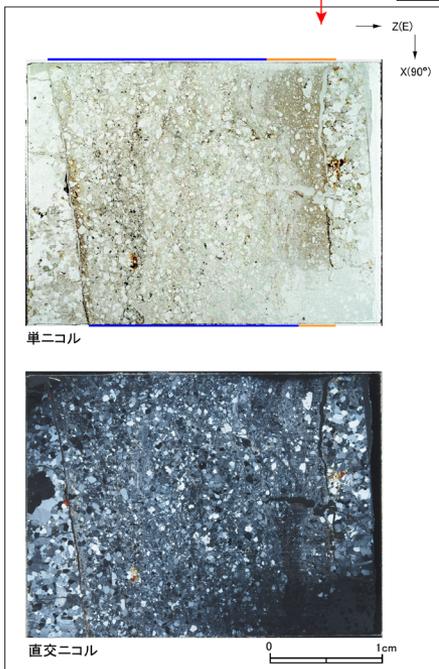
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N28°E 86°E
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

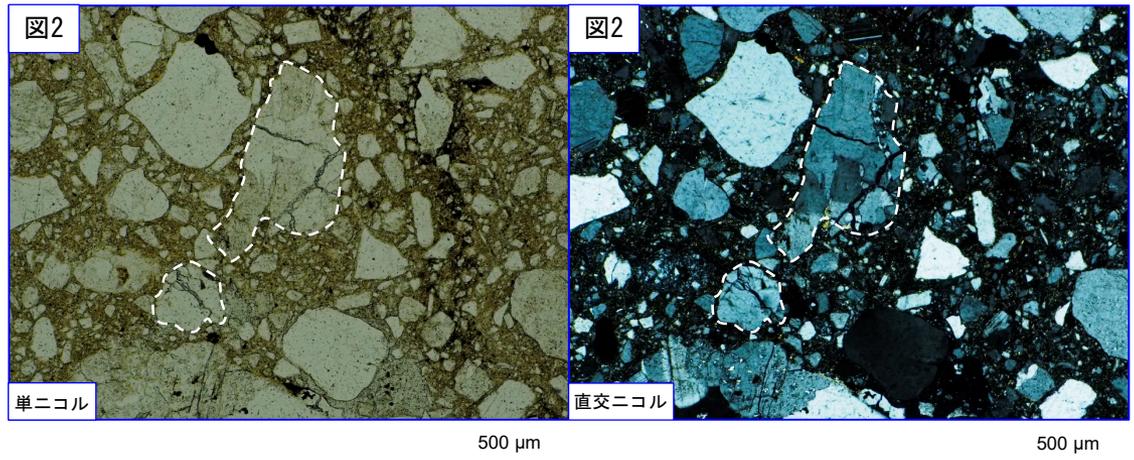
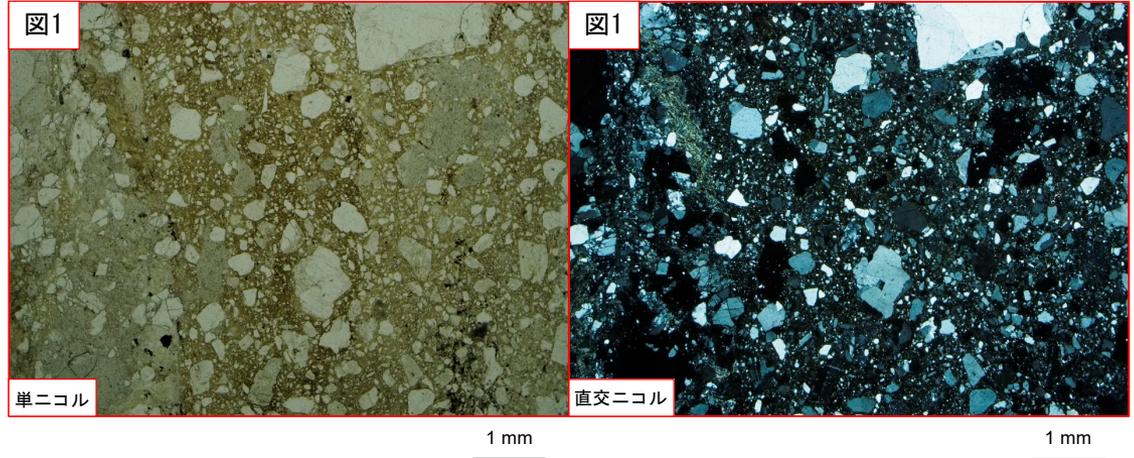


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

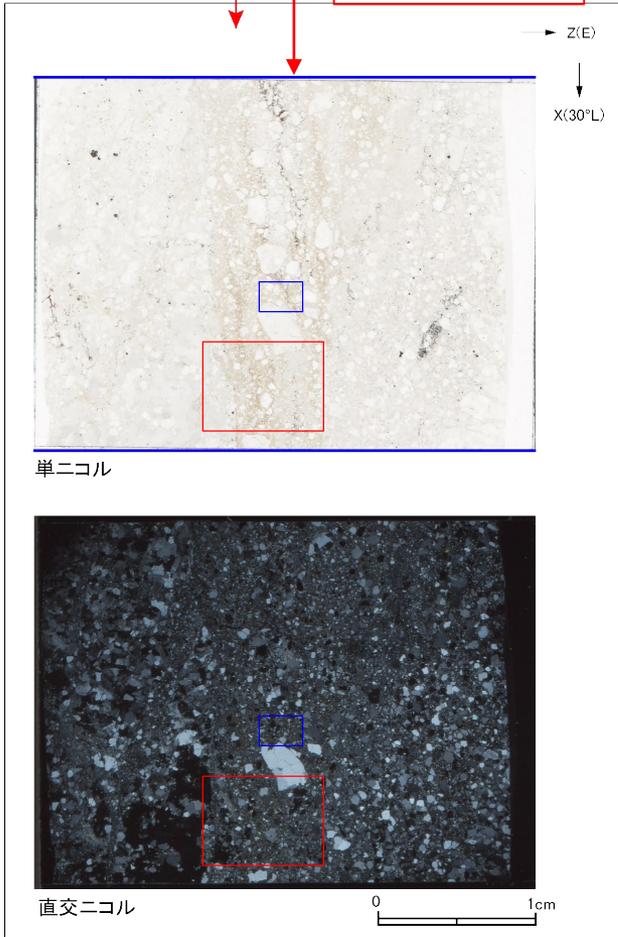
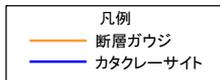
H27-B-1 深度113.51~113.60m 非モデル化破砕部(2/2)

・破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められる。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



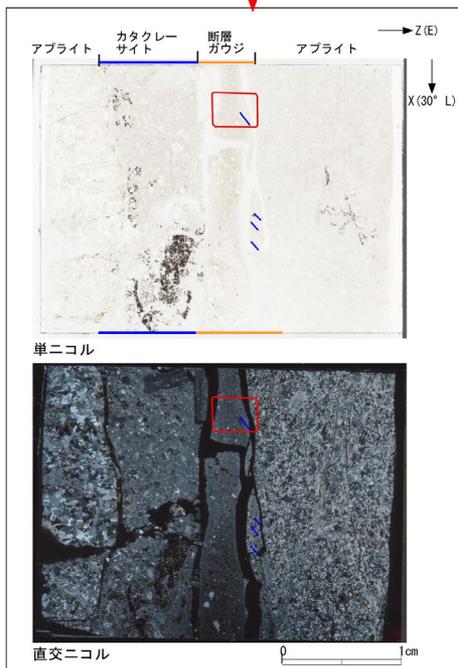
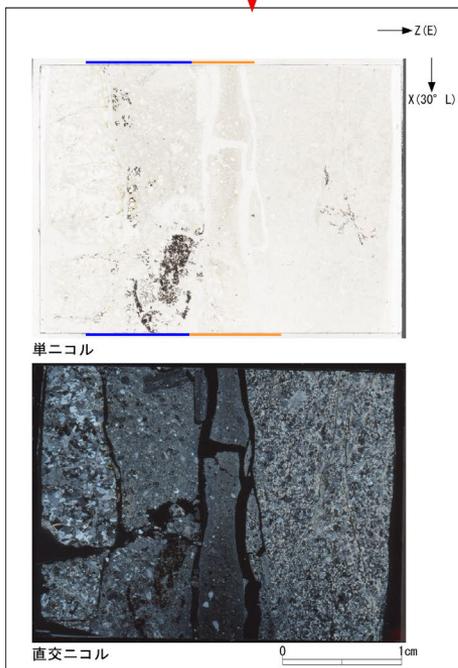
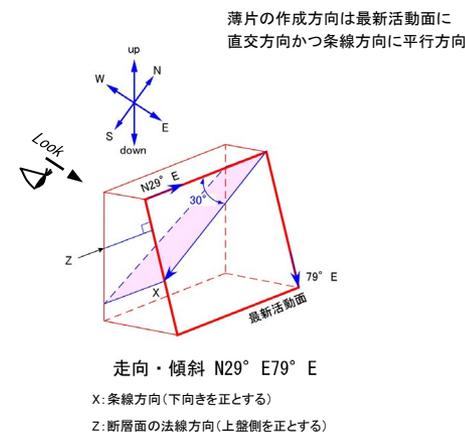
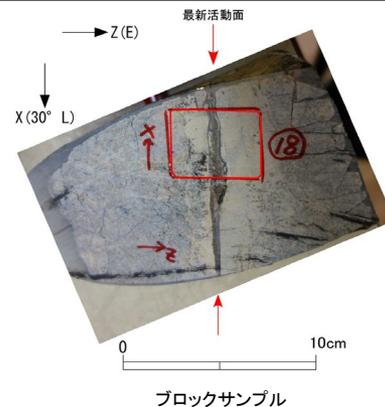
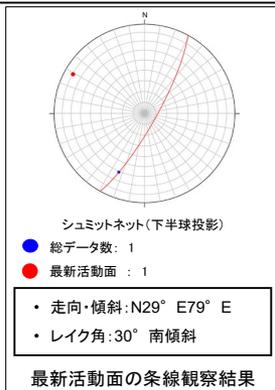
破線はジグソー状の角礫群示す。



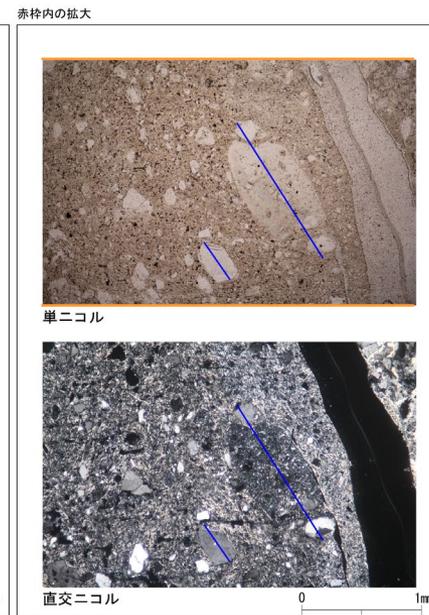
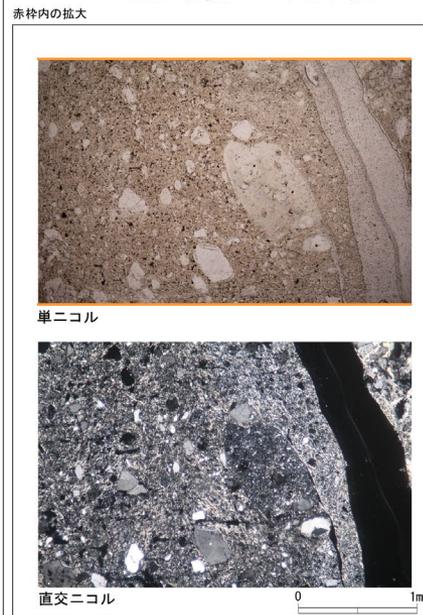
H27-B-1 深度118.94~119.12m D-41破砕帯

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度119.10m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



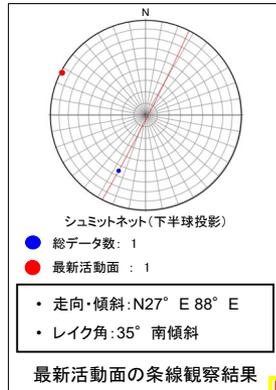
※切断面に記載されているX方向は誤り



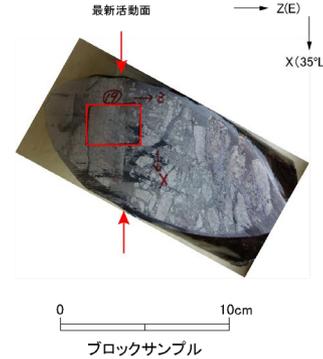
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度139.82~139.88m D-42破砕帯

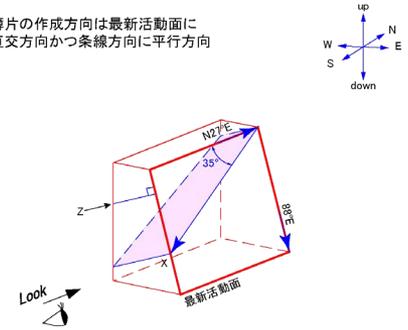
- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度139.82m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



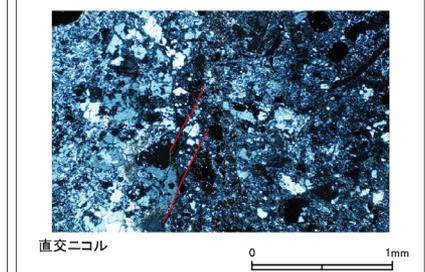
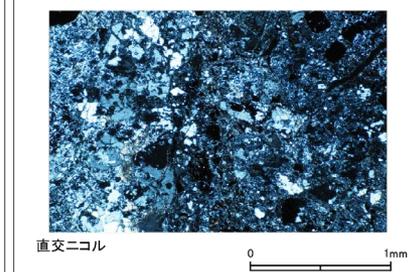
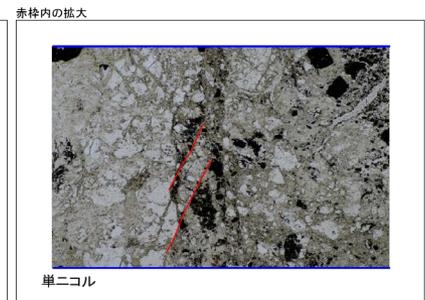
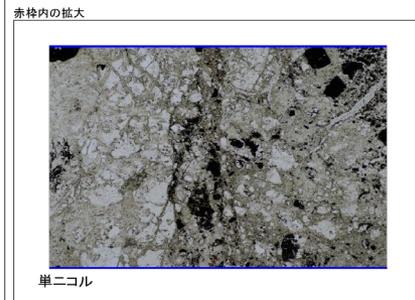
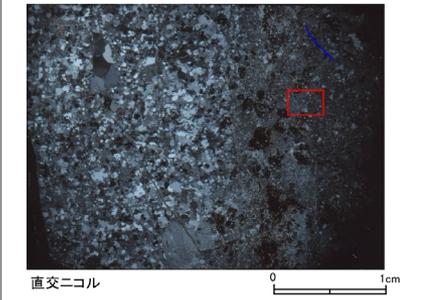
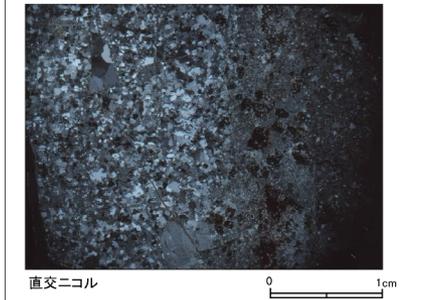
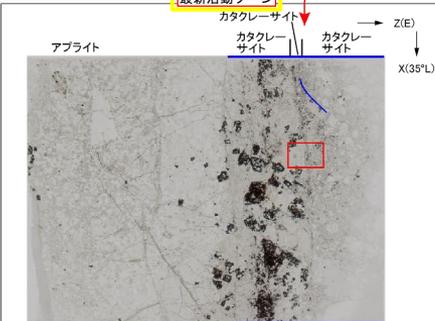
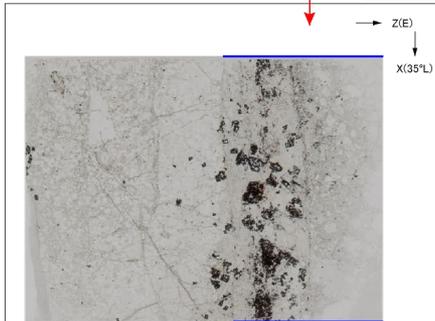
最新活動面の条線観察結果



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N27°E 88°E
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上置側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2

余白